

第14回全日本中学生男女ソフトボール大会に協賛

2014年8月8日(金)～12日(火)、大阪市此花区の舞洲運動広場で開催された「全日本中学生男女ソフトボール大会」に、全国餅工業協同組合は前年に続き2年連続で協賛しました。

舞洲アリーナで行われた開会式には、全国の地区予選を勝ち抜いた女子46チーム、男子14チームの選手たちをはじめ、ご家族や関係者が多数集結。各チームが工夫を凝らした入場行進を繰り広げました。式の最後には全国餅工業協同組合からのアナウンスとして、「10月10日はおもちの日」であることや「おもちには運動時のエネルギー源になる炭水化物がたっぷり含まれていること」などが紹介されました。



また、それに先立って行われた監督ミーティングでは、全国餅工業協同組合の長田俊二専務が挨拶に立ち、出場校全選手におもちをプレゼントさせて頂くことを告知。会場前には特設カウンターが設置され、各チームへ切り餅セットの箱詰めが手渡されました。



さらに、「10月10日はおもちの日」のシンボルマークをモチーフにした「おもち大明神」が会場に出現。試合での活躍を占う特製おみくじが好評で、記念撮影の列が途切れぬほどでした。

折しも、台風11号が西日本を直撃して各地で大きな被害が出る悪天候の中、大会は2日間の順延を挟んで11日にトーナメント戦がスタート。

会場内には全国餅工業協同組合の横断幕や特設テントブースが設置されました。そこで全国各地から応援に駆けつけた方々へ切り餅セットやチラシ、特製うちわなどのサンプリングを行い、おもちの普及拡大活動を行いました。



選手の健康管理に気をつかうおかあさんたちに話を伺ったところ、練習を終えて帰宅した子どもたちの第一声は、いつもきまって「おなかすいた〜!」の一言。

そんな時には、さっと手軽に調理できる「おもち」がぴったりなのだそうです。

「角餅を焼いて、毎日味付けを変えて食べさせている、

「うちの子は丸餅を味噌汁に入れて食べるのが大好物」など、地方色豊かな声を聞かせて頂くことができました。

